

2024年3月19日
 ジャパンマテリアル株式会社
 日本トランスシティ株式会社
 日本貨物鉄道株式会社

半導体材料の長距離輸送における モーダルコンビネーションの本格運行開始について

ジャパンマテリアル株式会社（本社：三重県、代表取締役社長：田中 久男、以下「JM」）、日本トランスシティ株式会社（本社：三重県、代表取締役社長：安藤 仁、以下「TRANCY」）、及び日本貨物鉄道株式会社（本社：東京都、代表取締役社長兼社長執行役員：犬飼 新、以下「JR貨物」）は、半導体の製造過程で使用される「半導体材料ガス」の輸送について、物流の2024年問題やカーボンニュートラルに向け、持続可能な物流体制構築のため、これまで貨物鉄道を用いたトライアル輸送を重ねてまいりましたが、この度、本格運行を開始しましたのでお知らせします。

1. 概要

この取り組みは、加速するデジタル化の波に伴う半導体産業の重要性の増大と、物流のカーボンニュートラルへの移行を背景とし、2023年6月より三重県の四日市駅から岩手県の水沢駅まで、鉄道コンテナを用いたトライアル輸送を実施してきました。

この度、貨物に対する振動や温度保持などの輸送品質について、従来の輸送と比較して遜色がないことが確認されたため、本格運行を開始しました。



鉄道コンテナに積載された半導体材料ガス



3月17日に行われた出発セレモニーの様子

2. 各社のコメント

JMは、顧客及び関連企業等と連携し、環境に配慮した持続可能な物流体制の構築を図りサプライチェーンを強化することで、顧客の安定操業と半導体業界におけるグリーン調達活動を推進していきます。

TRANCYは、総合物流企業として社会に必要な不可欠なインフラである物流を担っており、グローバルな領域で社会に貢献しております。現在、物流業界は、2024年問題に起因する労働者不足ならびにGHG排出量削減をはじめとする環境対応等の課題に直面しています。本取り組みは、お客様のサステナビリティに貢献するサービスであり、今後もこのような取り組みをお客様と共に推進していきます。

JR貨物は、全国に広がる鉄道ネットワークを生かした貨物鉄道輸送を行っています。貨物鉄道は一人の運転士で一度に大量の荷物を運べるなど労働生産性が高く、優れた環境特性を有した輸送モードです。特に中長距離輸送においてその特性を発揮し、近年深刻化している労働力不足問題などの社会課題の解決に貢献します。また従来に代わる輸送手段のひとつとして、重要な戦略物資である半導体輸送の「複線化」にも寄与します。今後も鉄道を基軸に、お客様にとって最適な物流ソリューションを提供する総合物流事業を推進していきます。

3. 今後について

今回の半導体材料ガスの貨物鉄道による本格運行開始は、効率的な物流システムの構築が求められる中で、より安全かつ環境に優しい輸送手段としての価値を提供し、半導体産業のサプライチェーン強化に向けた重要な一歩となります。

今後も、三社はこの新しい輸送サービスを通じて、物流業界における持続可能な社会と半導体産業の発展に貢献します。